

プラスチックごみ削減とレジ袋有料化について

リサーチの背景

コンビニやスーパー等で買い物をすると、当たり前のようにレジ袋を使用し捨てています。それは、持ち運びに便利な反面、プラスチックごみを増やす一因となっています。世界中でプラスチックの汚染が社会問題となっており、レジ袋はじめ使い捨てプラスチックへの規制が強まっています。「何のために」「いつから」をテーマに、プラスチック削減の観点より「レジ袋有料化」を掘り下げていきます。

作成者: H.T.

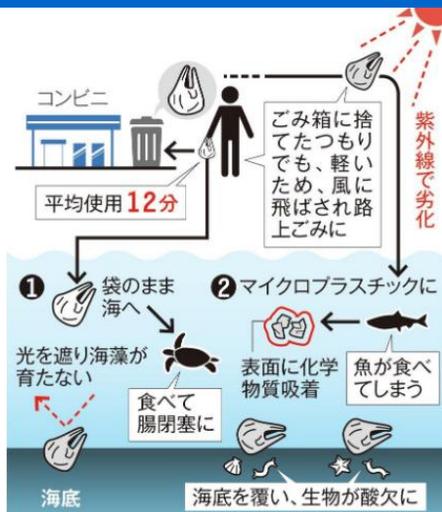
レポートに関する
お問い合わせ:
03-5542-5300
info@sinter.com

諸外国のレジ袋に関する具体的な動き

| 国 | 年 | 対策 | スーパーなどでのレジ袋利用 |
|--------|------|-----------|---------------|
| アジア | | | |
| 中国 | 2008 | 非分解性を禁止 | 6-8割減 |
| インドネシア | 16 | 有料化(約2円) | 40%減(23都市) |
| インド | 16 | 禁止 | |
| 欧州 | | | |
| ポルトガル | 15 | 有料化(約14円) | 74%減 |
| オランダ | 16 | 有料化(約34円) | 40%減 |
| フランス | 16 | 禁止 | |

出典: 日本経済新聞 2018年10月19日

レジ袋が海洋プラスチックごみになるまで



出典: 産経新聞 2019年6月28日

プラスチックごみ

「2050年」までに魚の量を上回る

プラスチックは軽くて強く錆びない為、発泡スチロールや容器、包装類など様々な用途に使用され、便利な生活の一部となっています。しかし、そのプラスチックが自然を汚染しているという現実があります。世界ではこの問題を深刻に捉え、G20首脳が共通目標としてプラスチックごみの海洋汚染を無くすことを共有しています。もし今対策を講じないと、2050年までに海洋プラスチックの量が魚の量を上回ると言われています。

海洋プラスチックごみ発生量(2010年推計)では、1位~4位が東アジア・東南アジアであることから、プラスチック削減は日本でも喫緊の課題です。日本国内のプラスチックごみ発生量は年間900万トン。うち、レジ袋だけに限っても20万トンを占め、枚数にすると300億~500億枚と言われています。数百億枚という数字は決して看過できるものではなく、レジ袋を使用する小売店や消費者は削減に取り組むべきでしょう。

プラスチック削減施策が進む諸外国では、より身近なレジ袋削減から取り組み一定の効果を出しています。

レジ袋有料「2020年7月」に義務化

アジアや欧州のレジ袋削減施策から一拍おいて、日本でも2020年7月1日より全小売店を有料化の義務付け対象とすることになりました。2020年の7月といえば、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期と重なります。「環境を優先する2020年東京大会」とあるように、環境をキーワードにどのような取り組みを行うかに注目が集まっています。一方で、プラスチック削減は一過性の目標ではありません。大会に目掛けて間に合わせの対応をするだけでなく、社会全体の持続的な行動が求められています。

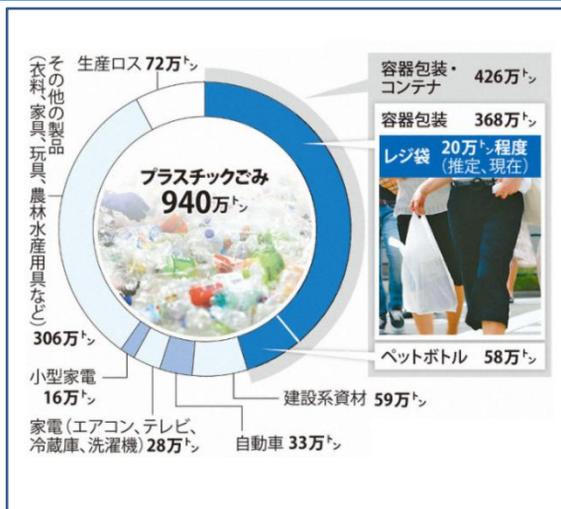
プラスチックごみ削減へ、まず一個人から行動を

世界の海洋プラスチックごみは増え続けており、私たちの食や健康にも影響を及ぼすことが懸念されます。そのプラスチックごみの一因であるレジ袋削減への取り組みが2020年より日本でも始まります。プラスチックごみ削減の為に、一人ひとりがこの問題を正しく理解し、レジ袋をもらわないなど具体的な行動をおこす必要があります。また、削減の結果を出すためには行動の継続性が求められます。私たちが残したごみで次世代が苦しまないよう、行動と信念をもってプラスチック問題に取り組むべきではないでしょうか。

海洋プラスチックごみ問題に関する国際動向

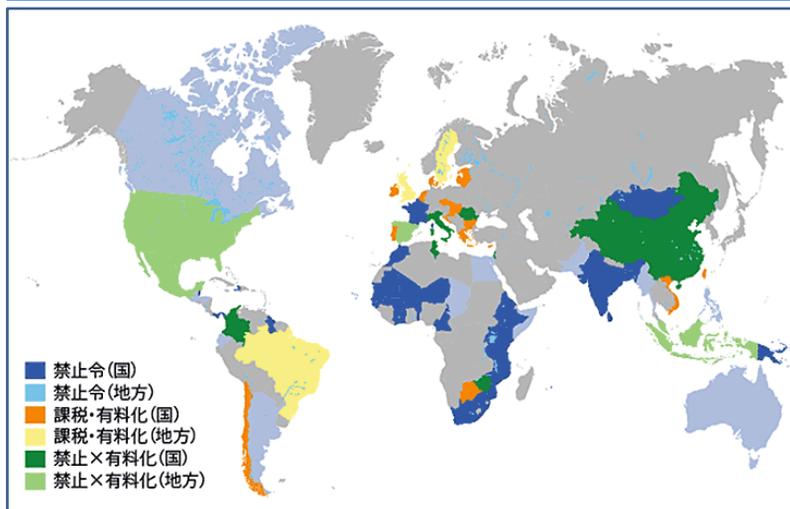
| | | |
|---------|--------------------|---|
| 2015年6月 | 【G7エルマウ・サミット】 | ・海洋ごみ、特にプラスチックごみが世界的課題であることを初めて提起 |
| 2016年1月 | 【世界経済フォーラム】 | ・世界経済フォーラムとエレンマッカーサー財団が「世界の海に漂うプラスチックごみの量は、実効的なアクションをとらなければ、2050年までに魚の量を上回る」と警鐘を鳴らす |
| 2017年7月 | 【G20ハンブルク・サミット】 | ・「G20海洋ごみ行動計画」の立ち上げに合意 |
| 2018年6月 | 【G7シャルルボワ・サミット】 | ・カナダ及び欧州各国が「海洋プラスチック憲章」を承認 |
| 2019年3月 | 【第4回国連環境総会(UNEA4)】 | ・ワンウェイプラスチックに関する閣僚宣言を採択※2030年までに使い捨てプラスチック製品大幅削減 |
| 2019年6月 | 【G20大阪・サミット】 | ・2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまでする「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有 |

日本国内のプラスチックごみの内訳



➤ 出典: 毎日新聞 2019年6月12日

世界各国のレジ袋法的規制



➤ 出典: UNEP Single Use Plastic
レジ袋規制発行・議会承認45ヶ国、課税・有料化決定60ヶ国
(2018年2月時点)

参照・引用資料

- 環境省ホームページ: <https://www.env.go.jp/mail.html> (2019年11月9日閲覧))
- 環境省ホームページ: レジ袋有料化検討小委員会 (第1回) 配布資料「レジ袋有料化に係る背景について」
- 産経新聞ニュース: <https://www.sankei.com/life/news/190628/lif1906280008-n3.html>
- 日本経済新聞: <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO36683740Z11C18A0EA2000>

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。